



令和2年度 自己点検・評価

令和3年7月1日

コンセプト

”仕掛ける人に、なれ”

時代を創り、
新しい価値を生み出していく人材＝”VISION MAKER”を
育成することを目的として教育を行なっています。

*MIICAで育む5つの力

01 目標を立てる力 将来なりたい自分をかなえるために、今の自分が達成すべき目標を適切に立てる力

02 自分自身を知る力 いろいろな人との人間関係の中で、自分の実力や価値観などを客観的に見る力

03 価値を生み出す力 まわりの人たちと協力しながら知識や経験を組み合わせて、新たな価値を生み出す力

04 恐れず挑戦する力 目標達成のために何をすべきか自分で考え、失敗を恐れずにトライアル&エラーする力

05 自ら知識を得る力 トライアル&エラーする中で見えてきた、自分に足りない知識を自ら積極的に獲得する力

<教育の目標と重点>

- ・令和2年度の重点目標

目標① 選択授業の導入

2,3年生に対して、週に2度授業を選択し学習する機会（ゼミ）を設定し、芸術祭をアウトプットの場とした。

◎カリキュラム内容例

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| ・音楽制作実習ゼミ | ・クリエイティブゼミ | ・国語ゼミ |
| ・映像演技ゼミ | ・ダンスゼミ | ・実写映像実習ゼミ |
| ・写真表現ゼミ | ・デザインゼミ | ・イラストレーションゼミ |
- ほか

目標② 生徒の希望を叶えるため進路指導の促進

- ・1学年～3学年まで、それぞれの学年に適した進路選択のための機会を設定した。

◎各授業について

- 1学年：進路選択授業を行い、当校からの選択肢と、推奨する受験方法を明確にした。
- 2学年：進学希望・就職（芸能活動含む）希望に分かれて説明会を行った。
- 3学年：進路選択に向けて、個別面談を密に行い、将来を考える機会・勉強会を行った。

◎オンライン学習ツールの導入

「Inspire High」を導入し、動画を用いて自身の将来について考える機会を設定した。

目標③ オンライン環境の積極的活用

- ・コロナ禍において、学びを継続するため、いち早くオンライン機能を導入、活用した。
- ・Classiを導入し、普段の生活から学習を記録しポートフォリオを作成した。
- ・slack、Google Classroomを導入し、学習機能をより強化した。
- ・保護者に対しては、配布文書も可能であるスクールメールシステム「e-pa」を導入し、より細やかな情報伝達・共有に努めた。
- ・入学式では、急遽「オンライン入学式」の開催を決定、中継し自宅参加の形式で行った。

<教育課程>

◎カリキュラムの特色化と適切性

変わり続ける世界の中で、いま必要とされるのは「受験のためだけの勉強」ではなく「変わり続ける世の中に対応しうる力」をもつことである。

本校では、知識偏重型の教育を廃し、新しい時代の教育ニーズに応えるべく、自己表現し自ら未来を切り拓いていく人材となるべきカリキュラムを独自に設定している。具体的には、自分の考えを他者に対して表現する「ヒューマン・コミュニケーション学」や、自分の考えた企画の実現やマネジメント、総合プロデュース力を培う「企画立案・プロデュース学」、デジタルな情報発信スキル/リテラシーを培う「デジタル情報発信学」など、“クリエイティブ”に生き、自分自身を最大限に表現していくためのスキルを身につける授業科目がある。

他にも、学校法人 日本芸術学園の40年にわたる芸術・芸能教育の強みを生かし、芸術表現（演技/音楽/ダンス/ビジュアル・アーツ/伝統芸能）を多岐にわたり学習している。また、その根幹にある“教養”を、リベラル・アーツや実用英語、メディアエンターテイメント学により学ぶ。

本校のカリキュラムの特色は、クリエイティブ人材を輩出するためのカリキュラムに特化させていることにある。

◎教育システム全体の工夫と充実度

従来の5クール制を見直し、科目の連続性と成果を重視したターム制へ切り替えた。

さまざまな科目に触れ、学ぶ機会を従来通り確保しながら、科目におけるアウトプットへ重きを置き、また前後期末に行う芸術祭への成果接続を試みた。

<教科指導>

◎「生徒の個性を伸ばす教育」の強化

成績評価表のフォーマットを改訂し、項目別評価（態度、能力、達成力）を測るほか、教員からのコメント評価を行えるようにした。また、Google Classroomを活用して、生徒の提出物に対してコメント返却を行う仕組みを整えた。

◎選択制授業の導入

将来の志望に近い科目を選択的に履修することで、生徒の希望する分野の専門性を高め、進路へつなげることを目的とした。また、より高度な授業を行うことで、生徒個々のもつ特質性を磨く実践的環境を整えた。

◎行事意義の見直し

・合宿先の変更により、コロナ禍に対応し感染対策を行いながら、生徒にとってかけがえのない親睦機会と学びの捻出に尽力した。自粛生徒に対しては、NYオンラインツアーを並行して実施した。

<進路選択>

◎選択肢を「知る」機会の促進

学年別で進路説明会を行ったほか、個別面談を強化し行った。
結果として、生徒の多くが希望する進学先・就職先へ進むことができた。

◎芸能進路・指導の強化

上位専門学校との連携により「プレシヤスオーディション」への高等課程から参加した。また、実際にその機会を進路につなげた在校生・卒業生がいた。

※主な進路・就職先

4年制大学

- ・東京造形大学 デザイン学科 写真専攻領域（2名）
- ・東京造形大学 デザイン学科 グラフィックデザイン専攻領域（1名）
- ・和光大学 表現学部 総合文化学科（5名）
- ・和光大学 表現学部 芸術学科（1名）
- ・桜美林大学 リベラルアーツ学群（1名）
- ・尚美学園大学 芸術情報学部 舞台表現学科 ダンスコース（1名）

専門学校

- ・HAL CG・デザイン・アニメ 4年制学科 アニメ・イラストコース（1名）
- ・HAL ゲーム 4年制学科 ゲーム企画コース（1名）
- ・文化服装学院 ファッション流通専門課程 ファッション流通科（1名）
- ・東京こども専門学校（1名）

エンターテインメント関係

- ・ファッション・雑誌・広告 モデル（1名）*モデルプロダクション所属
- ・舞台・映像俳優（1名）*俳優プロダクション所属
- ・ミュージカル俳優（1名）*セルフマネジメント

<生徒の活動>

- ・芸術祭のテーマ曲として生徒が制作した楽曲を実際に販売した。
- ・消防庁の映像制作へ在校生が協力し、個別表彰を受けた。
- ・専門学校映像フェスティバルにおいて、在校生（1年）がグランプリを受賞した。

<次年度の目標について>

- ・カリキュラムの成果を重視した改訂を行う
- ・生徒のアウトプット機会を創出し、学びを見える化する
- ・オンラインの活用をより一層強化し、臨機応変に目標を達成しうる体制を整えていく